

和歌山県有田市

地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える



【地域の基礎データ】

人口：28,244人（平成31年1月1日現在）

面積：36.91平方キロメートル

高齢化率：30.1%（平成27年1月1日現在）

産業：農業（みかん）、漁業（太刀魚）、工業 など

観光資源：みかん山、箕島漁港、有田みかん海道 など

【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1回生：3名、2回生：4名）

活動期間：平成29年6月～

担当教員：大井達雄

1. 活動実施の経緯

昨年度に引き続き、同様のプログラムを実施した。有田市において、箕島本町商店街を中心とする小売店の減少を契機として大型店を利用しがちな市民が増加し、昔ながらの活気のある街並み姿を消しつつある。一方で、子どもたちに自分の育つまちで働く人の魅力を伝え、ふるさとに誇りと愛着をもってほしいという思いは地域に住まう大人たちの長いでもある、このような地域の状況を踏まえ、地域で働く子どもたちや住民に有田市に対する誇りや愛着を醸成することを主なテーマとしている。

2. 活動の内容

本プログラムでは、下記の流れで行った。

(1) 「観光についての意見交換会」

有田市における今後の成長戦略として、やはり観光振興の存在については無視することができないということで、紀州有田商工会議所青年部主催で「観光についての意見交換会～若者が訪れる観光地に向けて～」に参加し、意見を述べた。具体的な内容として、これまでに訪れた観光地とその魅力、有田市にあればいいと思うこんな場所、これからの有田市に必要なことなどがあげられる。観光学部生として、これまで大学で学んできた「観光学」の知識を実際に生かせる機会を得た。年齢階層の違い、内部と外部の視点の違い、法律や制度上の課題など、具体的な意見があっても実行が困難であったり、



それぞれ考えの異なるステークホルダーが存在したりすることが明らかになり、とても貴重なディスカッションであった。

(2) 「観光についての意見交換会」

今回の活動のテーマである「地域で働く人の魅力を子供たちに伝える」を実施するために、地元で料理教室を運営している「さけい料理教室」に依頼し、みかんジャムづくりとそれに伴うワークショップを行った。当日のイベントはキャンセル待ちが出るほど人気で、自分達の活動成果を実感することができた。前半ではワークショップを行い、有田みかんの歴史・みかん農家さんの仕事・おいしいみかんの見分け方などをクイズも織り交ぜながら子供たちと学び、子供たちにとっては当たり前である有田みかんの素晴らしさを改めて知ってもら



うよい機会となった。後半では班に分かれてみかんジャムづくりを行った。子どもたちの感想から、以前のイベントにも参加してくれたこと、一生懸命ワークショップで熱心にメモをとってくれたこと、イベントを楽しんでもらえたことが分かり、子供たちにとって有意義な時間を提供でき、同時に地域の魅力を子供たちに伝えることができたといえる。

第3回筑島っ子集会!
みかんジャムづくり
和歌山大学の学生と一緒に有田みかんについて楽しく学びませんか?
有田みかんを使ったジャムづくりも予定しています!
教えてくれるのはさけい料理教室の須井先生です!
みんなで一緒においしいジャムを作ろう!

日時 : 12月16日(日) 9時30分~
場所 : さけい料理教室 (〒940-0244 和歌山県和歌山市 47-583-9287)
参加費 : 1人 300円 (当日集めず)
持ち物 : 上靴、エプロン、三角巾、お手洗
対象 : 4年生以下の児童
募集人数 : 10名 (先着順)
申込先 : 有田市社会福祉協議会
TEL: 88-2750
(土・日・祝を除く 9時30分~17時15分まで)
アレルギーがある方は、申込み時に教えてください。
応募締切 : 11月30日(金)
抽選日: 12月10日(日) 15時30分まで
抽選結果は発表してあります。
抽選結果は発表してあります。
主催: 和歌山大学経済学部教育普及 LLP
後援: 和歌山県社会福祉協議会

3. 活動を通じて

上記以外の活動として、2019年2月に開催された『地域共創フォーラム 2018~他世代で考える有田市の支え合い~』の運営や準備にも従事し、当日はフォーラムの総合司会を担うことになった。本プログラムは2年目であり、有田市において、地域インターンシッププログラムの活動内容が浸透しつつあるといえる。また2年生が1年生に対し、きめ細かい指導を行った。もちろん、活動全般に言えることではあるが、有田市や有田市社会福祉協議会の協力なくしては成立しないことはいうまでもない。

昨年度の報告書にも記載されているが、今後の展開として、今回のイベント運営などを通じて得た知見、経験、そして地域とのつながりを大切にしながら、同地域における多世代交流のさらに推し進めるような活動に取り組んでいくことが期待される。一方で新たな課題も発見されたので、それについては、有田市に対し、フィードバックすることが重要である。このような改善を通じて、さらなる本プログラムの発展することを望む。